こんな間違い
していませんか？

その図面、「高い」「納期が長い」「加工側から指摘される」
原因になっているかもしれません。

図面は描ける。寸法も公差も入っている。CADも使いこなしている。——それなのに、見積が思ったより高い。納期が読めない。加工業者から「この指示、本当に必要ですか？」と電話がかかってくる。

もし思い当たるなら、原因はあなたの能力ではありません。**「現場でどう作られるか」を知る機会がなかった**、ただそれだけです。

実際に加工現場で毎日図面を受け取っている私たちから見ると、設計者がやりがちな“もったいない間違い”には、はっきりとした共通点があります。その代表的なものを、まずは3つご紹介します。

いくつ当てはまるか、正直にチェックしてみてください。

設計現場で本当によくある間違い

間違い 1

× 「公差は厳しめに入れておけば安心」

必要以上に厳しい公差は、加工時間・測定の手間・不良リスクを一気に押し上げます。逆に基準や測定方法があいまいだと、加工側は安全側に振るしかありません。

→ 精度は「安心料」ではなく、そのまま見積額になります。

間違い 2

× 「JISどおりに書けば、それが正解」

JISが常に最適とは限りません。たとえば市販ボルトの多くは、実はJIS規格品ではありません。仕上げ記号も、三角記号と数値表記で同じ仕上がりなのに見積額が変わる傾向があります。

→ 「正しい図面」と「安く作れる図面」は別物です。

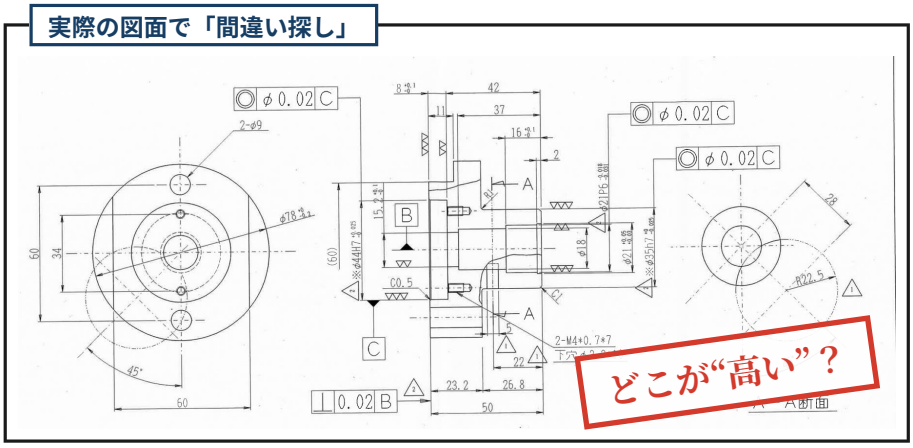
間違い 3

× 「表面処理は後工程の話。図面には関係ない」

めっきや表面処理の“逃がし穴”を開け忘れると、処理不良・やり直し・追加工の原因に。後工程のことまで図面に織り込めているかで、コストも納期も変わります。

→ 1つの穴の書き忘れが、全数手直しになることも。

実際の図面で「間違い探し」



この図面、現場のプロなら すぐ気づきます。

メンバー企業が実際に受け取った図面をもとにしています。「安く・早く作れる図面」にするには、どこを直せばいいでしょうか？

ほかにも、こんな心当たりは？

- ☐ 加工方法（切削か板金か）は業者任せにしている
- ☐ 図面に書いていないことも「いつもの業者」がうまくやってくれる
- ☐ 見積が高い理由・納期が長い理由を説明できない

答えと解説は、裏面へ ▶

間違いの正体は、「現場を知らないこと」。
そしてその損は、図面が使われるかぎり続きます。

高いものを買っている。納期の長いものを買っている。でも、なぜそうなるのかが分からない——。それは、図面の先で「どう削り、どう溶接し、どう測るのか」を見たことがないからです。

しかも図面は、一度描けば何年も、何百回も発注に使われます。**1枚の図面に潜む“ムダ”は、発注のたびに積み重なっていきます。**

さらに怖いのは、図面に書かれていないノウハウが加工側に溜まっているケースです。いつもの業者だから回っていただけで、別の業者に出した途端に工数が倍になる。品質がそろわない。結局、元の業者に頭を下げて戻る——そんなことも珍しくありません。

実際にあった話

ある角パイプ部品の見積

24万円 の見積に対し **12万円**

の他社に発注。しかし図面には表れないノウハウが必要な部品で、結局は元の加工会社へ戻ってきました。

「安い見積」が安いとは限らない。適正価格を見抜く目も、現場でしか身につきません。

解決策 — FACTORY SEARCH 加工現場研修

「現場目線の図面づくり」で、コストを下げる。

FACTORY SEARCH

図面の初歩を教える研修ではありません。**図面は描けるが現場を知らない設計者**に、実際の製造現場を体験していただく研修です。決まったカリキュラムを押し付けるのではなく、**御社の設計内容に合わせて、最適な製造現場をコーディネートします。**

STEP 1	▶	STEP 2	▶	STEP 3	▶	STEP 4
ヒアリング 御社の設計・課題を伺う		現場コーディネート 最適なメンバー企業を選定		現場体験 自社図面がどう作られるか		図面へ反映 安く・早く作れる図面に

選べる現場の例：機械加工 / 旋盤・量産 / 板金 / 溶接 / めっき・表面処理 / 組立 / 機械設計 ／複数社を組み合わせたプログラムも可能

メリット1
「安く作れる図面」が描けるようになる

一度きりの値引きではありません。描き方が変われば、その効果は以後のすべての図面・すべての発注に続きます。

メリット2
見積と納期の「なぜ」が分かる

高い理由・長い理由を自分で判断できるように。加工側からの指摘や手戻りが減り、適正価格を見抜く目も養われます。

メリット3
研修後も、現場のプロに直接相談できる

受け入れ企業との関係は研修で終わりません。「この形状、どう描けば安くなる？」を気軽に聞ける相談先が手に入ります。

お申し込み特典

表面の「間違い探し」の答えと解説をお届けします

- どこが・なぜ高くなるのか、現場目線の赤入れ解説
- 御社の課題に合わせた研修内容のご提案（ヒアリング）

※ 特典・募集内容は変更になる場合があります。

まずは、答えを見てみませんか？

QRコード

WEB　［URLを記入］
TEL　［電話番号を記入］
MAIL　［メールアドレスを記入］

主催：FACTORY SEARCH 研修事業チーム

追伸：「うちの図面は大丈夫」と思った方ほど、表面の図面をもう一度見てみてください。1か所でも迷ったなら、それが現場を見るべきサインです。